

編集後記：編集委員をやっていると気象をキーワードにしたさまざまな原稿を目にします。論文や短報は新規性を重要視しますが、「気象談話室」は気象に関連する様々なテーマについての示唆に富んだ話で、気楽に読める読物です。一般の普及書や教科書では扱われない気象の見方・考え方、説明の難しい問題に対する従来とは見方を変えた答や解説、…などを扱っています。以前、「気象のABC」という連載でコリオリ力についての記事が出たことがありました。するとそれに関する談話室原稿が2編投稿されました。馴染みのあるコリオリ力という概念への関心の高さを示すとともに天気読者も独自の説明をいろいろと考えているのだなと思いました。更に天気掲載の記事をきっかけとして新しい見方の提示とその情報の発信に役立っているのだと思いました。

情報発信と言えば近年はインターネットの普及により個人で情報が自由に発信でき、それが世論を動かす

までになっています。しかしその情報が正しいものか否かについて一般の人には判断できないこともあります。発信元が信頼のおけるものかを確認したり、他の資料にあたって判断することになります。

天気では各記事に対して担当編集委員が著者とのやりとりを通じて内容に誤りがないか、読者にとって読みやすいか、分かりやすいか、などの編集作業を行います。多少時間がかかりますがこのような作業を通じて正しい記事を読者に届けています。読者になるほどと思えるようなおもしろい記事を掲載できたときは編集委員冥利に尽きます。

天気は読者の皆様の投稿記事で成り立っています。今後とも天気へのご協力をお願いするとともに良い誌面を作るよう編集委員も努力して行きたいと思いません。

(萩野谷成徳)